

議事録			
件名	生物多様性なら戦略 第6回改定委員会	記録者	株式会社アドプランツ コーポレーション
月日	令和5年12月1日(金)		
時間	13:00~15:00	形式	委員会
場所	アクティ奈良6階スタンダードルーム		
出席者	希少野生動植物保護専門員	前田 喜四雄(哺乳類) 元吉 司(鳥類) 井上 龍一(両生類・爬虫類) 細谷 和海(魚類) 宮武 頼夫(昆虫類) 尾上 聖子(植物) 丸山 健一郎(菌類)	
	生物多様性飛鳥地域保全活動推進協議会	木村 史明(橿原市昆虫館副統括)	
	奈良県 景観・自然環境課	福井 靖典(課長補佐) 山原 美奈(係長) 山口 貴大(主任主事) 木嶋 海智(主任主事)	
	株式会社アドプランツコーポレーション	増永 滋生(管理技術者) 原楨 由希子(担当技術者)	
	傍聴者	なし	
議事次第			
1. 奈良県挨拶			
2. 令和5年度 生物多様性なら戦略 第1回改定委員会 出席報告			
3. 次期生物多様性なら戦略本文案について			
4. その他連絡事項			

1. 本会議の成立について

項目	概要
本会議の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・専門員 7 名全員の出席があったため、奈良県希少野生動植物保護専門員会議運営要領第 4 条第 2 項の規定により、本日の会議は成立した。

2. 第 1 回改定委員会後の修正箇所の説明

項目	概要
第 1 回改定委員会での意見を踏まえた修正箇所の説明等	<p>【修正箇所・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業放置林や耕作放棄地問題の中に、ササ・クズの記載を追加修正。 ・ナラ枯れの現状は、統計や記載時点を明記。 ・行動計画については実施主体を明確に記載。 ・担い手育成や団体構成員の高齢化についてはコラムとして記載。 ・生物多様性センターのような拠点施設や組織の設置は現状困難。ただ、生物多様性センターの登録を取る方向で検討中の施設を保有する市町村と県とで連携協定を結び、戦略を推進していく方針。 <p>【新規執筆箇所・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P9 第 I 章 4. 戦略策定の背景全体 ・P23～31 第 II 章 2. (2) 外来種に関する記載 ・P32 以降、希少野生動植物の紹介 ・第 V 章全体 <p>【資料 3 について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回改定委員会資料への指摘であり、今回委員会資料へ反映できていない。 ・環境省の委託会社には、本文について、文化・経済の記述に関する助言をお願いしたが、そのような提案はなく、体系化、見出しの統一感等に対する指摘のみであった。 ・県としては、体系化のやり直しは、現段階

	では困難と考えているが、見出しと書きぶりの修正等是对应可能かと考えている。また、大幅な修正は困難であるが、委員から意見があれば、可能な限り反映したいと考えている。
--	---

3. 本文案に対する意見・修正案

項目	概要
・ 文体、用語の統一について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文の文体を、ですます調に統一すること。 ・ 用語を整理・統一すること（山地・山岳、奈良県・本県・県内、等）。
・ 文化的サービスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良は京都と同じように、文化財が非常に多いにもかかわらず、文化的サービスの議論が全く出てこない。P5 (3) 文化的サービスがバックグラウンドとなり、P42 基本方針と目標の中の中長期目標の (2) までは挙がってくるが、行動計画には盛り込まれていない。P43 の模式図の 3. 生態系サービスの持続可能な利用の (4) として、文化的サービスの理解・推進、などとして入れたほうがいいのではないか。 ・ 生物多様性と文化は別々のものではなく、相互にリンクしながら発展する、というような考え方で、それを繋ぐ行動計画を出したほうがいいのではないか。例えば、奈良県では飛鳥地域が文化的な多様性が高く、歴史性もあり、水田生態系を中心とした生物多様性が非常に豊かであるし、そういうものを生かして生物多様性と文化的な面をリンクさせるような行動計画があってもいいのではないか。
・ 生物多様性センター機能を持つ拠点の設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期目標 (1) に、生物多様性センター機能を持つ拠点を設定し、とあり、P65 にも、情報のハブ機能、と書かれているので、そういう施設をどこかに設けるといようなことを努力目標として挙げておくべき

	<p>ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱モノはなくても、ネットワーク構築的なことでもいいのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画について 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画、今後どういうふう実際にやられるのかが気になる。なら戦略ができた時点で本当に行動するのに予算が確保できるのか。作りっぱなしでは意味がない。県が行動できるような予算立てができる行動計画になっていないといけない。 ・標本庫については、早急に考えていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページ (生物多様性の重要性について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2. 生物多様性の重要性」において、私たちの「いのち」「暮らし」が生き物や生態系が人間にもたらしてくれる恩恵によって成り立っているということは、一般の人にはとても分かりやすい導入ではあるが、本来、生態系の重要性というのは、生きもの同士がいろんな関係を持って、それによって生態系のバランスが保たれている、その中で私たちの「いのち」「暮らし」も恵みを受け、守られている、という展開にしたほうがいいのではないか(県に任せる)。(反対意見もあり)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 ページ (生物多様性の危機について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (3) 第3の危機(人間に持ち込まれたものによる危機)の中で、環境ホルモン、ダイオキシンの話は詳細に書かれているが、農薬についてはほとんど触れられていない。今世紀に入ってから使われるようになった新しい農薬の影響が、水生生物等に関して非常に大きいと言われているので、少し触れてもらえないか。 ・ (4) 第4の危機(地球温暖化による危機)として、このまま温暖化が続けば、紀伊半島のブナ林は今世紀中に消滅するといわれているので、このことにも触れておいたほうが良いのではないか。

<p>・ 11 ページ (奈良県の地形・地質について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀伊半島動植物研究会会報の第 17 号、第 18 号に、紀伊半島の地形・地質やそれに関係した動植物の分布について書いてあるので、参考にしてほしい。 ・ 奈良県の南部地域に葛城・金剛山頂は入らない。大和平野の地域に入るのではないか。 ・ P12 下から 5 行目、吉野川、北山川、十津川の溪谷は南北に流れ、とあるが、吉野川は東西に流れる。 ・ 大和平野と奈良盆地は同じ意味で使われているのか、よく分からない。
<p>・ 17 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「森林」「里地里山」「都市部」「河川・ため池」の円グラフ様の図に示された各環境の面積 (%) を合計すると 113% となる。都市計画エリアに森林や里地里山が含まれているということか。誤解を招きやすいため、図や数値を修正してはどうか。
<p>・ 26 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工林はもともと生物多様性が非常に低い。さらに施業放棄されて荒れた状態であれば伐採して雑木林などに転換させる方向に進めていった方がいいのではないか。 ・ 施業放置林の広葉樹林化について、既に事業を進めているとのことだが、PR 不足であるので、そういった取り組みについて、行動計画などに文言を追加してはどうか。
<p>・ 27 ページ、29 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能であれば、耕作面積の推移やアライグマの捕獲数の推移などを、グラフ化できないか。 ・ 可能であれば、アライグマについては、クビアカツヤカミキリのような分布図で、県内の広がりを表現できないか。
<p>・ 31 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キウイフルーツのところ、下から 4 行目、「種子が自然に分散し」、を、「種子が野外に分散し」などに修正してほしい。
<p>・ 32～36 ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希少種の説明部分で、最初の「本種は」は

	<p>ない方が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P34 ヒメタイコウチの減少理由に、「植物の遷移の進行による減少」を追加したほうが良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・44 ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミの抜け殻は木だけではなく、草、シダ、建造物にも付くので、「草や木など」と書いた方が良い。 ・セミの鳴く時間は、ヒグラシやクマゼミなどは決まった時間に鳴くが、他のセミはまた異なるので、朝から夕方までの、①朝、②昼前、③昼過ぎ、④午後、⑤夕方、などそれぞれの時間に、毎日セミの鳴き声を聞いてみましょう、という書き方にした方が良いのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・51 ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・玉置神社境内の「過ぎの巨樹群」の「過ぎ」を「スギ」に修正すること。 ・下から4行目、文章が繋がらないので修正すること。
<ul style="list-style-type: none"> ・53 ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・⑤天然記念物で、定期的な現況把握として、現在モニタリングなどしている例があれば紹介すればアピールになるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・57 ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物被害予防対策の箇所に、もう少し写真があっても良いのではないかと。問題意識を持ってもらえるような写真など。
<ul style="list-style-type: none"> ・58 ページ (担い手育成について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を考えていただきありがたいが、文字だけではもったいない。年齢構成のグラフ、観察会の写真、集合写真などを入れると、「読んでみようかな」という気になるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ・66 ページ (行動計画3. 第3の目標 個人の取組の視点の追加について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・66 ページの県民に求められる役割の一つで、生物多様性のためにできる5つのアクション(「食べよう」「触れよう」「伝えよう」「守ろう」「選ぼう)をもうちょっと膨らませてはどうか。「三重県の生物多様性推進プラン第3期」が各アクションについて

	写真・例示付きで分かりやすので参考になるのではないか。
・巻末資料について	・P52、53 に出てくる保護樹木や天然記念物などの一覧表を載せてほしい。

3. その他

・写真、イラストについて	<ul style="list-style-type: none"> ・P44 セミの調査に使用しているイラストに変わる写真は、各委員から提供していただける。 ・特定希少野生動植物の各写真に説明を入れる、矢印を入れる、トリミングをする、など、何の写真か分かるように修正する。 ・写真に説明を入れるなら、全部入れた方がよい。ごく簡単に、1行程度で入れる。 ・雌雄の写真を入れるときは、オスが先(上)、メスがあと(下)となるようにすること。 ・写真や図に通し番号を付けておくと、引用しやすい。・実際の大きさが分かりやすいように、写真にスケールを入れてはどうか。
・環境省事業について	・環境省の委託会社に少し急いでもらい、次の会議資料ではその意見を反映したものを準備してほしい。
・今後の予定	<p>第3回：令和6年1月19日(金)</p> <p style="text-align: center;">アクティ奈良5階 アドバンスルーム</p> <p>時間：13時～15時</p>